

## 対話型授業(2018/6/4)

地球温暖化防止のため、再生可能エネルギーの普及は急務であるので、それに伴う生活コストの増大や格差の拡大は許容すべきだ。

### <賛成>

1. 近いうちにコストが下がる(半数以上が導入できる)ので格差の拡大につながらない
2. 温暖化が進行した場合の経済的損失が大きい(食糧, 医療, 燃料の輸入)
3. 出資者が企業なので
4. 地方創生にも役立っている(雇用, 環境教育)
5. 限界集落でも経費が苦ではない
6. 枯渇資源からの転換は必要
7. 格差を拡大しない方策もあるはずだ(所得に応じた累進課税→電気料金が上がらないように, 開発)
8. 温暖化を防止しないと私たちの生活への影響が深刻
9. 急務ではないけれど必要だ
10. 産業の発展と地球温暖化の防止の両立には必要だ

### <反対>

1. 格差が予期しない新しい問題(???)を生起する
2. 消費力が下がって活力が下がる
3. 再生可能エネルギーの利用が困難
4. 本当に地球温暖化か? CO2が原因か? ヘゲモニー, 陰謀論?
5. 環境に配慮している人がよいという風潮は疑問
6. 50円→700円に増えている。ドイツ(50%目標)では34倍 消費税の逆進性も加わる
7. エネルギー効率(24%)は上がらないので急務は疑問
8. パネルの大量廃棄が心配
9. メガソーラーが環境破壊につながる場合もある
10. 格差の拡大に見合うメリットがない(バイオマスが食糧供給に)

## 賛否の割合(2018/6/4)

討論前			
学部	賛成	反対	合計
法文	25	40	65
教育	4	12	16
総合理工	7	3	10
生物資源	23	22	45
人間科学	12	16	28
合計	71	93	164
(%)	43.3	56.7	100.0

討論後			
学部	賛成	反対	合計
法文	23	42	65
教育	2	14	16
総合理工	6	4	10
生物資源	23	22	45
人間科学	7	21	28
合計	61	103	164
(%)	37.2	62.8	100.0

判定			
学部	賛成	反対	合計
法文	19	46	65
教育	3	13	16
総合理工	3	7	10
生物資源	10	35	45
人間科学	6	22	28
合計	41	123	164
(%)	25.0	75.0	100.0

どちらが充実していたか(説得力・斬新さ)?

- ✓ 合意が得られない課題についての議論に意味を見いだせましたか?
- ✓ 意見が一致しなくても、お互いに学び合えましたか?
- ✓ 「対立や葛藤の中にこそ、創造の種がある」とも言われます。